

〔原著〕

幼児に対する性教育の実態

遠 藤 恵 子¹⁾・井 上 京 子¹⁾・坪 井 禮 子²⁾
石 沢 セイ子²⁾・松 田 水 月²⁾・佐 藤 弘 美³⁾

A Survey on Sex Education for Children in Preschools

Keiko ENDO¹⁾, Kyoko INOUE¹⁾, Reiko TSUBOI²⁾,
Seiko ISHIZAWA²⁾, Miduki MATSUDA²⁾, Hiromi SATO³⁾

Abstract : The purpose of this study was to elucidate preschool nurses' experiences and knowledge regarding sex education for children.

Data were collected using a questionnaire survey conducted on 316 nurses in 44 preschools. Among these nurses, 126 (40%) had been questioned by children about sex difference and pregnancy and delivery. These nurses felt that such questions were natural in childhood, and provided children with basic information. 225 (71%) nurses have seen children rubbing sexual organs or kissing each other. They were confused by such actions, but took no actions. 88 nurses thought that sex education was necessary for children in preschools and the explanation of sex difference and pregnancy and delivery were important for children. 83 nurses were unsure how to teach children. These results clarified that sex education should be considered an essential topic for children in preschools. In addition, we present information on sex education by preschool nurses.

Key words : sex education, children in preschools, preschool nurses

はじめに

広辞苑¹⁾によると、性教育は「性知識や性道徳に関する教育」と記載されている。一方、性教育を、「性に関する知識を教える以上に社会的に望ましい成人としての心構えを育てる教育課題」、「ライフサイクルに応じた性的発達と変化に対して、生理・心理・社会的側面から健康的で豊かな人間性と社会性をもった性意識と性行動を身につけるような教育的援助」²⁾ という捉え方もある。さらに、ウッズは、性的に健康であるためには、「性機能や生殖機能を妨げる障害や疾患がなく、倫理に合致

させた性的行動を楽しみ、統制し、性的関係を損なうような否定的感情から解放されていることが必要」³⁾としている。これらのことから、性教育は、単に性に関する知識を与えるだけの教育でなく、基本的生活習慣の確立による身体的健康の保持増進、社会のルールを守る責任ある行動、他者との良好な関係の保持を目標とするものと考えられる。

文部科学省は、発達段階等に応じた性教育の目標及び指導内容を体系的に示している⁴⁾。それによると、幼稚園における性教育の目標は、「生命の尊さを感じ取る」、「男女の人間関係の基礎を築く」、「いたわりあう心と自分の欲求を抑制する心を育

1) 山形県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科
〒990-2212 山形市上柳 260
Department of Nursing, Yamagata Prefectural University
of Health Sciences
260 Kamiyanagi, Yamagata 〒990-2212
2) 羽陽学園短期大学
〒994-0065 天童市大字清池 1559

Uyo Gakuen College
1559 Shoge, Tendo. 〒994-0065
3) 羽陽学園短期大学附属たかだま幼稚園
〒994-0065 天童市大字清池 1501
Takadama Kindergarten attached to Uyo Gakuen College
1501 Shoge, Tendo. 〒994-0065

てる」とされている。これまで、幼稚園における具体的な性教育の実践報告はほとんどなく、幼稚園での性教育の実態は明らかになっていない。

そこで、幼児教育の専門職である幼稚園教諭を対象に調査し、幼児に対する性教育の課題を明らかにしようと考えた。

目 的

園児の性に関する行動とそれに対する幼稚園教諭のかかわり方、および幼児の性教育に関する意識を明らかにし、幼児期の性教育の課題を考察する。

研究 方法

1. 研究デザイン

自記式質問紙調査

2. 対 象 者

44 の私立幼稚園の教諭 441 人

3. 調査期間

平成 18 年 2 月から 3 月

4. 調査内容

属性、幼稚園教諭が体験する、園児の性に関する行動とそれに対するかかわり方、および幼児の性教育に関する意識について、一部自由記載を含む選択式とした。

5. 調査手順

便宜的に抽出した地区の私立幼稚園協会長を通し、地区の協会に加盟している幼稚園長に文書にて調査協力を依頼した。その後、各幼稚園に、教諭の人数分の研究協力依頼文書と調査用紙、個人ごとの回収用封筒を郵送した。園を通して教諭個人に配布してもらい、無記名で回答してもらった。記入後、各自回収用封筒に調査用紙を入れ、封をして園ごとにまとめてもらい、郵送にて回収した。

6. 分析方法

幼稚園教諭が体験する、園児の性に関する行動とそれに対するかかわり方、および幼児の性教育に関する意識の記述統計量を求めた。体験する行動やかかわり方や意識と教諭経験年数との関係、

体験する行動やかかわり方と性教育に関する意識との関係を分析した。検定には、統計ソフト SPSS 14.0 for Windows を使用し、間隔尺度には t 検定、名義尺度には χ^2 検定を行った。有意水準を 5%未満とした。

7. 倫理的配慮

研究目的、方法、倫理的配慮、問合せ先を明記した文書を、対象者一人一人に配布した。また研究協力は自由意志によることを保障し、調査用紙の回収をもって調査に同意したこととした。各自回答した調査用紙は封をして回収し、無記名の調査用紙を用いることで匿名性とプライバシーの保護を保障した。

結 果

1. 対象者の属性 (表 1)

441 人に調査用紙を配布し、364 人から回収した (回収率 82.5%)。回収された調査用紙のうち、無回答の 48 人を除いた 316 人を分析対象とした (有効回答率 86.8%)。

平均年齢 31.5 歳 (21 ~ 68 歳)、教諭歴 9.6 年 (1 ~ 39 年) だった。性別は、男性 6 人、女性 300 人、無回答 10 人、婚姻状況は、既婚 147 人、未婚 160 人、無回答 9 人だった。子どものいる人は 119 人だった。

2. 教諭が受けた性に関する教育

教諭が受けた性教育の内容は、「初経」、「男女の体の違い」が多かった (図 1)。

幼児期の性教育について学んだことのある人は 47 人 (14.9%) で (図 2)、学習した手段は、研修会がもっとも多かった (図 3)。

表 1 対象者の属性 n=316

年齢 (歳)	平均 ± 標準偏差	31.5±9.9
教諭歴 (年)	平均 ± 標準偏差	9.6±8.6
性別	女性	300 人
	男性	6 人
	無回答	10 人
婚姻状況	未婚	160 人
	既婚	147 人
	無回答	9 人
子ども	あり	119 人

3. 幼稚園教諭が園児から性に関する質問を受けた経験

園児から性に関する質問を受けたことのある人は126人(39.9%)だった(図4)。質問の内容は「男女の体」「妊娠出産」が多かった(図5)。質問された時の感情は、「当然」がもっとも多く、ついで「戸惑い」であった(図6)。園児の質問に対し

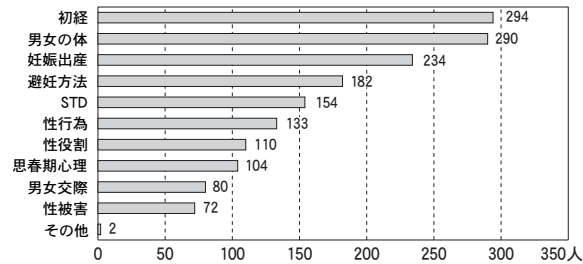


図1 教諭が受けた性教育の内容(複数回答) n=316

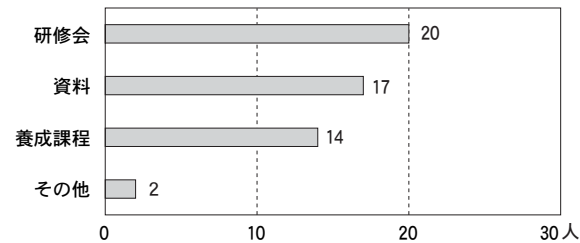


図3 「幼児の性教育」を学習した手段(複数回答) n=47

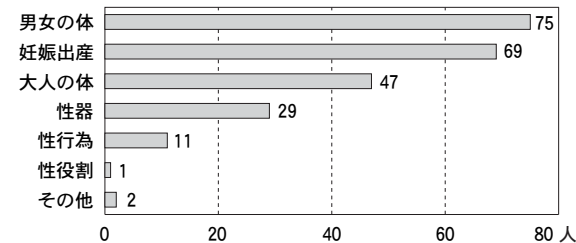


図5 園児から受けた質問の内容(複数回答) n=126

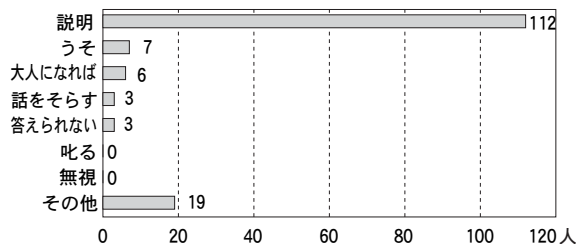


図7 園児に質問されたときの対応(複数回答) n=126

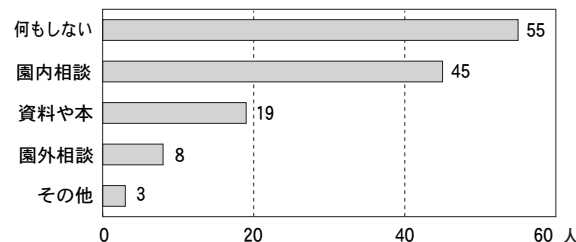


図9 質問に対応したあとの行動(複数回答) n=126

て、ほとんどが「園児にわかるように説明」していた(図7)。園児に対する自分の対応に、71.4%の人が「満足」、「やや満足」と評価していた(図8)。質問を受けたあとの行動は、「何もしない」、「園内で相談」の順だった(図9)。園児から質問されたことを保護者に伝えたのは21人(16.7%)だった(図10)。

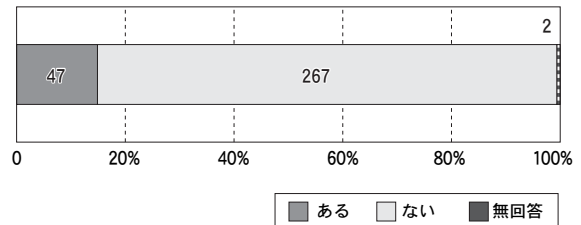


図2 「幼児の性教育」に関する学習経験 n=316

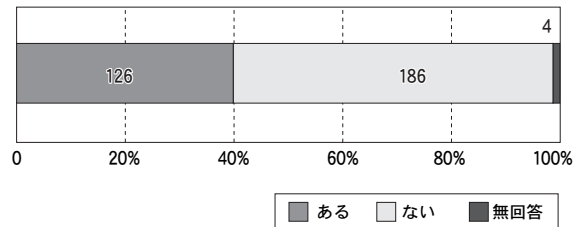


図4 園児から性に関する質問を受けた経験 n=316

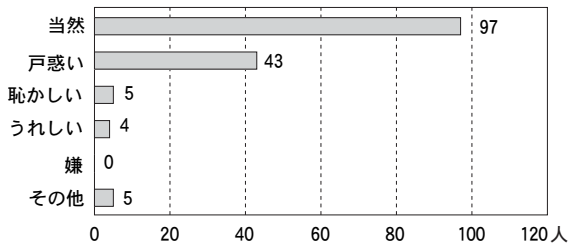


図6 園児から質問されたときの感情(複数回答) n=126

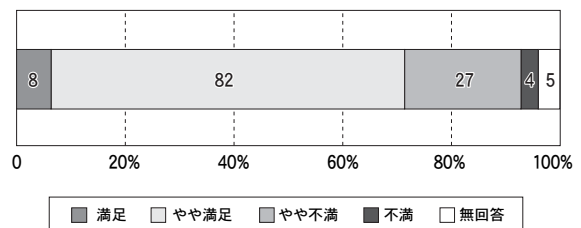


図8 園児の質問に対する自分の対応の満足 n=126

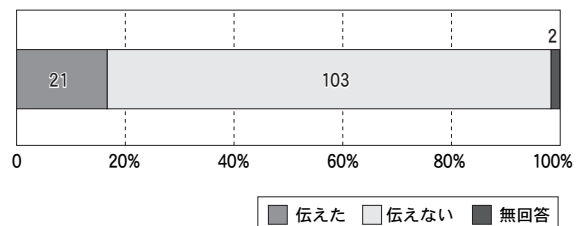


図10 質問されたことを保護者に伝えたか n=126

4. 幼稚園教諭が体験した園児の性に関する気になる行動

園児の性に関する気になる行動を体験したことのある人は 225 人 (71.2%) だった (図 11)。気になる行動の内容は「自分の性器さわり」, 「キス」, 「教諭に抱きつく」が多く, 「教諭の性器をさわる」, 「友人の性器をさわる」, 「性別蔑視の発言」も少数みられた (図 12)。園児の性に関する気になる行動を体験した時の感情は, 「戸惑い」がもっとも多かった (図 13)。また, 園児の気になる行動を体験したとき, 園児に対して, 「気をそらせる」, 「園児にわかるように説明する」が多かった (図 14)。

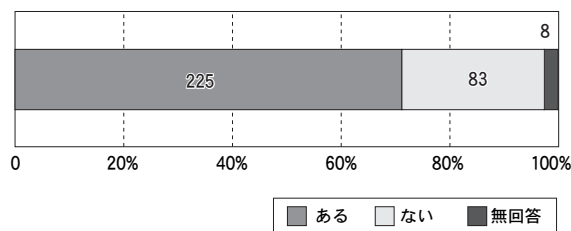


図 11 園児の性に関する気になる行動の体験 n=316

園児に対する自分の対応に, 51.5%の人が「満足」, 「やや満足」と評価する一方, 40.4%が「やや不満」, 「不満」と評価していた (図 15)。園児に対応したあとの行動は, 「園内の誰かに相談」がもっとも多かった (図 16)。気になる行動について保護者に伝えたのは 79 人 (35.1%) だった (図 17)。

5. 保護者からの園児の性に関する相談の経験

保護者から園児の性に関する相談を受けたことのある人は 49 人 (15.5%) だった (図 18)。相談の内容は, 「性器いじり」がもっとも多かった (図 19)。保護者から相談を受けたあとの行動は, 「園

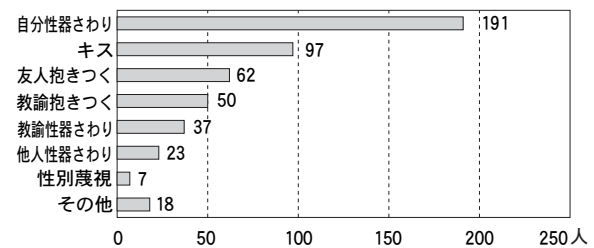


図 12 園児の性に関する気になる行動の内容(複数回答) n=225

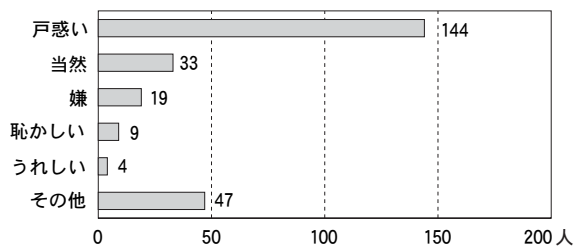


図 13 気になる行動を体験したときの感情(複数回答) n=225

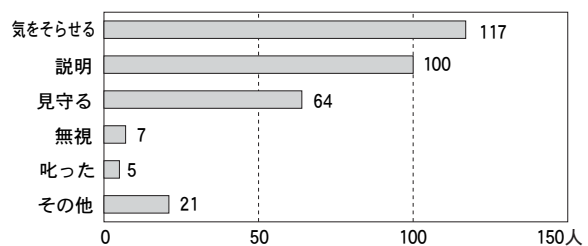


図 14 気になる行動を体験したときの対応(複数回答) n=225

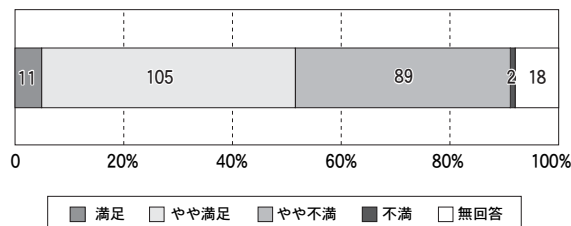


図 15 園児の行動に対する自分の対応に対する満足 n=225

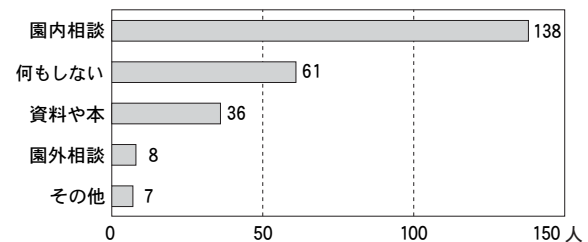


図 16 園児の気になる行動に対応したあとの自分の行動(複数回答) n=225

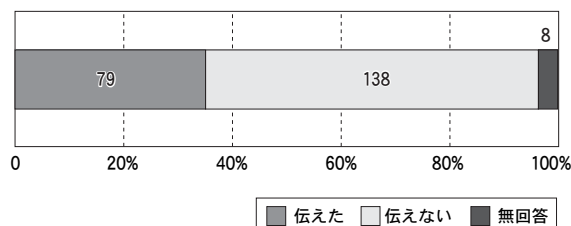


図 17 園児の気になる行動を保護者に伝えたか n=225

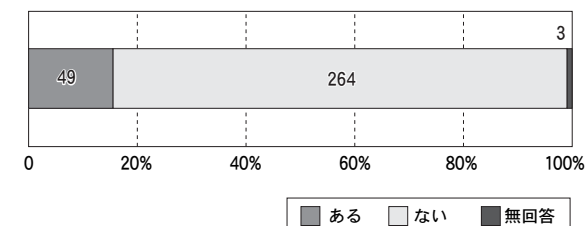


図 18 保護者から園児の性に関する相談 n=316

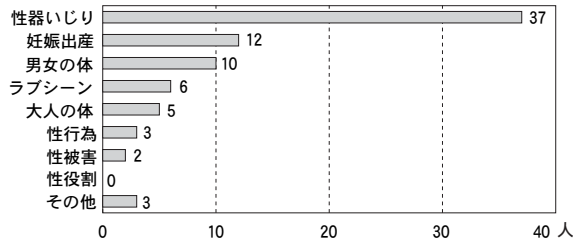


図 19 保護者から受けた相談内容(複数回答) n=49

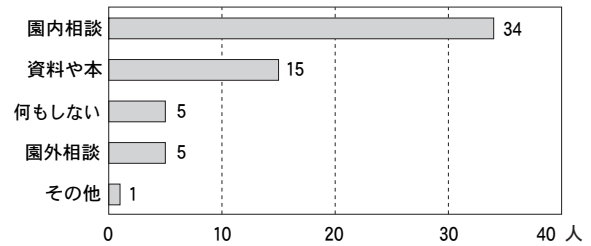


図 20 保護者から相談を受けたあとの行動(複数回答) n=49

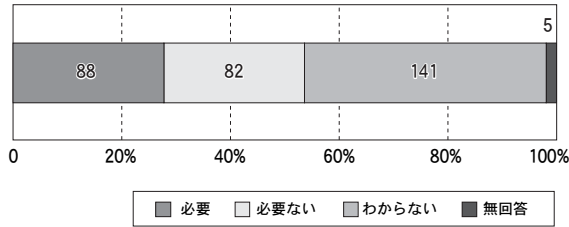


図 21 幼児の性教育の必要性 n=316

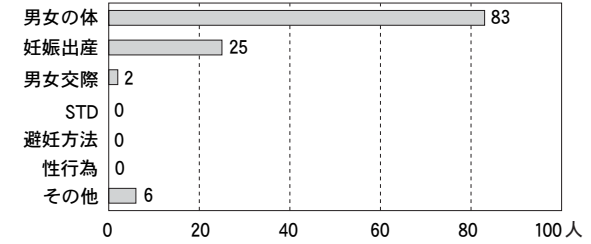


図 22 幼児に必要な性教育の内容(複数回答) n=88

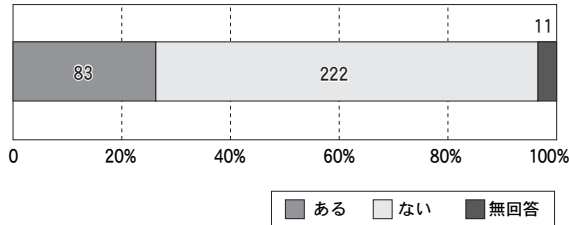


図 23 性教育で困っていること n=316

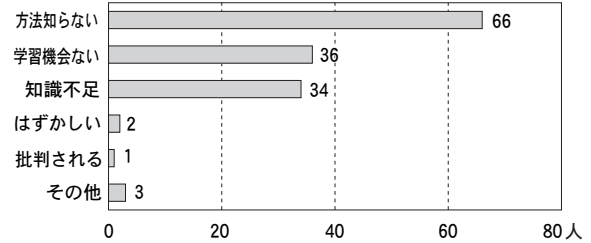


図 24 幼児の性教育で困っている理由(複数回答) n=88

表 2 幼児の性に関する質問の有無と教諭歴

	平均年数 ± 標準偏差	検定
質問経験あり n=122	12.3 ± 9.1	***
質問経験なし n=180	7.8 ± 7.7 年	

***p<0.01

表 3 幼児の性に関する気になる行動経験の有無と教諭歴

	平均年数 ± 標準偏差	検定
行動の経験あり n=216	10.8 ± 9.0	***
行動の経験なし n=81	6.6 ± 6.8	

***p<0.01

内の誰かに相談した」がもっとも多かった(図20)。

6. 幼児の性教育に関する意識

幼児期の性教育の必要性について、「必要」は88人(27.8%)、「必要ない」が82人(25.9%)、「わからない」が141人(44.6%)だった(図21)。幼児期に性教育が「必要」とした人に、必要な内容を尋ねたところ、「男女の体の違い」がもっとも多かった(図22)。性教育に関して困っていることがある人は83人(26.2%)で(図23)、困っている理由は、「教え方がわからない」がもっとも多く、ついで「学習の機会がない」「知識がない」だった

(図24)。

7. 園児の性に関する質問や気になる行動の体験と教諭経験年数との関係

園児から性に関する質問を受けたことの有無で教諭歴を比較すると、質問を受けたことのある人の教諭歴は12.3±9.1年、ない人は7.8±7.7年で、受けたことのある人はない人に比べ有意に教諭歴が長かった(p<.001)(表2)。

園児の性に関する気になる行動の体験の有無で教諭歴を比較すると、体験したことのある人の教諭歴は10.8±9.0年、ない人は6.6±6.8年で、体験

したことがある人はない人に比べ有意に教諭歴が長かった ($p<.001$) (表 3)。

保護者から園児の性に関する相談の経験の有無で教諭歴を比較すると、相談を受けたことがある人の教諭歴は 16.6 ± 9.0 年、ない人は 8.4 ± 8.0 年で、相談を受けたことがある人はない人に比べ有意に教諭歴が長かった ($p<.001$) (表 4)。

8. 教諭の幼児に対する性教育に関する意識と教諭歴との関係

幼児の性教育に関する学習経験の有無で教諭歴を比較すると、学習経験ありの人の教諭歴は 12.8 ± 10.5 年、ない人は 9.1 ± 8.2 年で、学習経験のある人はない人に比べ有意に教諭歴が長かった ($p<.05$) (表 5)。

幼児期の性教育が必要と思っている人と思っていない人の教諭歴を比較すると、必要と思ってい

表 4 保護者から性に関する相談の有無と教諭歴

	平均年数 ± 標準偏差	検定
相談経験あり n=45	16.6 ± 9.0	***
相談経験なし n=258	8.4 ± 8.0	
		*** $p<.001$

表 5 幼児の性の学習経験の有無と教諭歴

	平均年数 ± 標準偏差	検定
学習経験あり n=44	12.8 ± 10.5 年	*
学習経験なし n=259	9.1 ± 8.2 年	
		* $p<.05$

表 6 幼児に対する性教育の必要性の有無と教諭歴

	平均年数 ± 標準偏差	検定
必要あり n=85	12.7 ± 9.5	***
必要なし n=78	8.3 ± 8.3	
		*** $p<.001$

表 7 幼児期の性教育で困っていることの有無と教諭歴

	平均年数 ± 標準偏差	検定
困っている n=80	7.8 ± 7.2	*
困っていない n=214	10.1 ± 9.0	
		* $p<.05$

る人の教諭歴は 12.7 ± 9.5 年、思っていない人 8.3 ± 8.3 年で、必要性を感じている人の教諭歴はそうでない人に比べ有意に長かった ($p<.001$) (表 6)。

幼児の性教育に関して困っている人と困っていない人の教諭歴を比較すると、困っている人の教諭歴は 7.8 ± 7.2 年、困っていない人 10.1 ± 9.0 年で、困っている人の教諭歴は困っていない人に比べ有意に短かった ($p<.05$) (表 7)。

9. 園児の性に関する質問や気になる行動の体験と教諭の幼児期の性教育に関する意識

園児から性に関する質問を受けた経験の有無で、幼児期の性教育が必要と考える教諭の割合を比較した。質問を受けた経験があつて性教育が必要と考える人の割合は 42.3% だった。一方質問の経験がなく必要と考える人の割合は 19.6% と少なかった ($p<.001$) (図 25)。

園児の性に関する気になる行動の経験の有無で、幼児期の性教育が必要と考える教諭の割合を比較

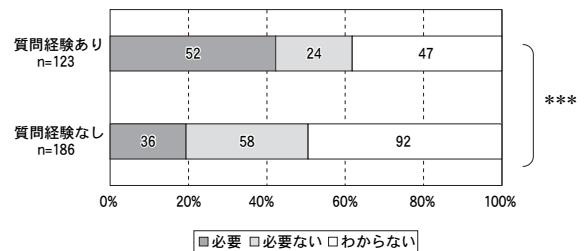


図 25 園児の性に関する質問体験の有無と幼児性教育の必要性 $p < .001$

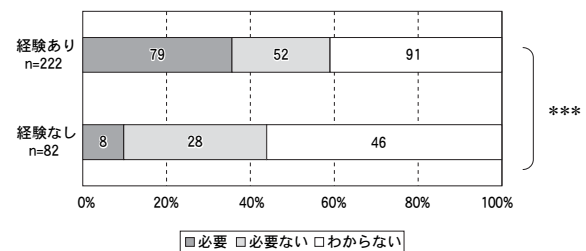


図 26 園児の性に関する気になる行動経験の有無と幼児性教育の必要性 $p < .001$

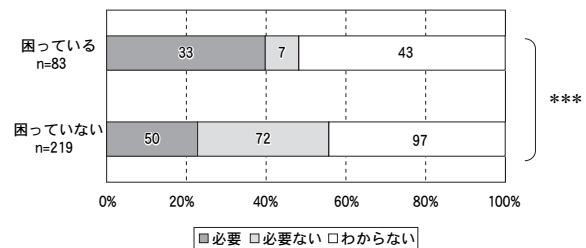


図 27 幼児性教育の困っていることの有無と幼児性教育の必要性 $p < .001$

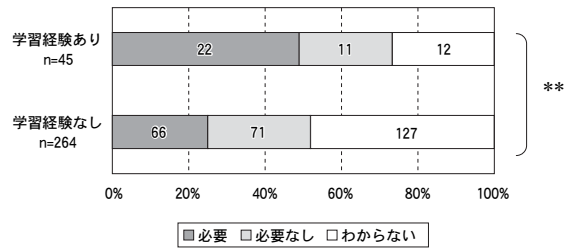


図28 幼児の性の学習経験の有無と幼児性教育の必要性 $p < .01$

した。気になる行動の経験があつて必要と答えた人の割合は、35.6%だった。気になる行動の経験がなくて必要と考える人の割合は9.8%だった ($p < .001$) (図26)。

幼児の性教育で困っていることの有無で、幼児期の性教育が必要と考える教諭の割合を比較した。困っている人で必要と考えるのは39.8%だった。一方、困っていないで必要と考える人は22.8%だった ($p < .001$) (図27)。

幼児の性教育の学習経験の有無で、幼児期の性教育が必要と考える教諭の割合を比較した。学習経験があつて幼児期の性教育を必要と考えた人は48.9%だった。一方、学習経験がなくて必要と考えた人は25.0%だった ($p < .01$) (図28)。

幼児性教育の学習経験の有無で、幼児期の性教育で困っていると感じる教諭の割合を比較した。学習経験があつて困っている人は24.4%，学習経験がなくて困っている人は27.1%だった (図29)。

考 察

1. 園児の性に関する行動と幼稚園教諭のかかり方

園児から性に関する質問を受けたことのある人の割合は39.9%で、質問の内容は男女の体や妊娠出産だった。また、71.2%が園児の性に関する気になる行動を体験したことがあり、気になる行動の内容は性器いじりが多かった。野口ら⁵⁾の保育士を対象にした調査でも、保育士の約3割が性に関する質問を園児から受け、また6割が園児の性に関する行動を体験していたと報告されている。これらのことから、幼児期は性に関する質問や行動がよくみられる年齢層であるといえる。また幼児期は、男女の性の区別の概念を獲得する時期である。この時期の発達の特徴を捉え、健康的な性意

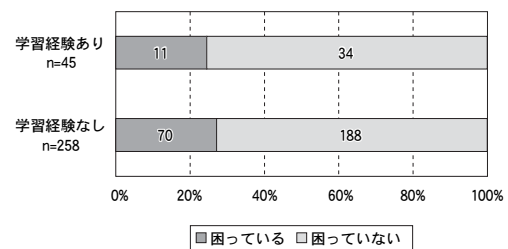


図29 幼児の性の学習経験の有無と困っていることの有無

識をもてるような性教育を行う必要があると考えられる。

幼稚園教諭は、性に関する質問は当然と感じていたが、園児の性に関する気になる行動には戸惑いを感じ、自分の対応に満足せず否定的な評価をする人も多かった。気になる行動の内容は、性器いじりが多かった。幼児期の性器いじりは、性器に疾患がない限り特に発達上問題がなく、強く叱らないことがよいとされている⁶⁾。幼児期によくみられる行動について、正しい知識をもち自信を持った対応が必要と考える。また、気になる行動の中に、少数であるが教諭や友人の性器をさわる、性別蔑視の発言がみられた。これらは、健康的で豊かな人間性と社会性をもった性意識と性行動を獲得するという視点からみると問題がある。幼児期からこのような問題行動に対して、きちんと対応していく必要があると考える。

2. 幼稚園教諭の幼児の性教育に関する意識について

幼児期の性教育が必要と思っている人の割合は27.8%，わからないと答えた人の割合が44.6%だった。必要と考える性教育の内容は、男女の体の違い、妊娠出産と、園児から質問される内容と同じだった。また、幼児期の性教育の学習経験がある人は約15%だった。及川⁷⁾が実施した幼稚園・保育所で勤務する保育者を対象にした調査でも、幼児期の性教育が必要と考えている人は約2割で、必要な内容は、命の大切さ、男女の体の違い、身体の清潔の順だった。一方、幼児の保護者で幼児期の性教育が必要と考えているのは約6割と報告されている⁸⁾⁹⁾。幼児期の教育に携わる幼稚園教諭は、保護者に比べ幼児期の性教育の必要性の認識が低いと考えられる。本研究では幼稚園教諭が性教育に関する意識を明らかにするものであるため、

あえて調査の際、性教育の定義を調査用紙に明記しなかった。本調査の対象者の幼児の性教育に必要と考える内容は、幼児の質問に答えられる内容に限られていた。これは、文部科学省⁴⁾が示す、「生命の尊さを感じ取る」、「男女の人間関係の基礎を築く」、「いたわりあう心と自分の欲求を抑制する心を育てる」という幼稚園における性教育の目標と比べると限局した内容と考えられる。幼児期の発達の特徴を捉え、幼児期に必要な性教育の内容を明確にする必要がある。

幼児に対する性教育で困っている人は、約 26% だった。困っている内容としては、教え方がわからないことや、知識不足、学習の機会がないことが多かった。教諭歴の長い人は、園児の性に関する質問や行動を経験していることが多く、性教育の必要性を感じていた。さらに、幼児の性教育で困っている人や幼児の性教育について学習経験のある人は、性教育の必要性を感じていた。一方、教諭歴が短い集団では、幼児の性教育で困っている人の割合が多かった。幼稚園教諭に対し、幼児の性教育の必要性について啓蒙することが必要である。特に、教諭歴の短い人が困っていることから、教諭歴の短い人には、幼児期の性に関する具体的な教育方法を学習する機会が必要と考える。また、学習経験の有無で、幼児の性教育で困っている人の割合に差がみられなかったことから、効果的な学習内容を検討する必要がある。

3. 保護者との連携

性に関する園児の質問や気になる行動を保護者に伝えている人は多くなかった。また、保護者から園児の性に関する相談を受けている人は 15.5% と少数だった。一方、幼児をもつ保護者を対象にした調査^{5) 9)}では、幼児を持つ保護者の多くが家庭内で子どもの性に関する質問や気になる行動を経験していた。また、親は性に関することに対してうまく説明できないと感じている⁹⁾。これらのことから、幼稚園教諭同様、保護者も幼児の性に関する質問や行動に戸惑っていることがうかがえる。保護者からの質問の内容と、幼稚園教諭が受けている質問や体験の内容はほぼ同じである。保護者と幼稚園との情報交換が必要と考える。

4. 幼児期の性教育の課題

以上のことより、幼児期の性教育の課題を次の 3 点と考える。

1. 幼児期は性に関する質問や行動がよくみられる。幼児期の発達の特徴を捉え、幼児期に必要な性教育の内容を明確にする必要がある。
2. 気になる行動は幼児の発達上問題のないものが多いが、幼稚園教諭は戸惑い、自分の対応に自信をもてない。教諭自身の幼児期の性教育に関する学習経験も決して多くない。幼稚園教諭の学習の機会を増やすことが必要である。
3. 家庭内でみられる幼児の性に関する保護者からの相談は、教諭が園児から受ける質問や体験の内容が一致している。幼稚園と家庭との情報交換が必要である。

おわりに

幼稚園教諭を対象にした、園児の性に関する行動とそれに対する幼稚園教諭のかかわり方、および幼児の性教育に関する意識の実態調査から、幼児期の性教育の必要性が確認され、幼児期の性教育の課題として幼児期の性教育の内容の明確化、幼稚園教諭への学習機会の提供、幼稚園と保護者の連携という 3 点が明らかになった。今回は、課題を明らかにするにとどまったが、今後、幼稚園教諭が困っている具体的事例を深く分析し、幼児期に必要な性教育の具体的内容や教育方法を検討していきたい。

本研究にご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。

本研究は、平成 17 年度山形県性に関する健康教育研究会自主研究補助金により実施した。

文 献

- 1) 広辞苑 第 5 版, 岩波書店, 1998.
- 2) 及川裕子: 幼児期の性教育の意義, 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 11: 1998.
- 3) ナンシー・F・ウッズ編、稲岡文昭他訳: ヒューマンセクシャリティ ヘルスケア篇, 東京, 日本看護協会出版会, 1993.
- 4) 文部科学省: 学校における性教育の進め方、

- 考え方, 東京, ぎょうせい, 2006.
- 5) 野口ゆかり、谷恭子、野見山美和他: 幼児期の性教育—幼児期における性に関する保護者・保育士の対応と比較検討—. 母性衛生, 42 (1): 155-162, 2001.
- 6) 小澤道子、柳澤尚代: 気になる子どものサポート 多様な視点を持つ保健指導. 東京, 医学書院, pp. 128-132, 1999.
- 7) 及川裕子: 幼児期の性教育の課題—保育者の意識調査を通して. 日本赤十字武蔵野短期大学 紀要, 14: 159-164, 2001.
- 8) 浦川智江, 出口信子: 幼児期における性教育に関する保護者の意識調査—施設助産師による性教育の役割と今後の課題—. 日本看護学会第34回母性看護収録集: 64-66, 2003.
- 9) 岸千加子: 幼児期の性教育で助産師は何をになえるか—保護者へのアンケートを通して—. 健生病院医報, 26: 42-46, 2003.
- 2006. 12. 7 受稿, 2007. 2. 28 受理 —

要 旨

幼児期の発達段階にあわせた性教育が必要であるが、幼児に対する性教育はほとんど実施されていない。

幼児期の性教育の課題を明らかにするために、44の幼稚園の教諭を対象に、園児の性に関する行動と幼児の性教育に関する意識に関する質問紙調査を行った。441人に調査用紙を配布し、有効回答のあった316人を分析対象とした。126人(40%)の教諭は、園児から性に関する質問を受けたことがあり、質問内容は「男女の体」「妊娠出産」が多く、質問を「当然」と感じ、園児に「わかりやすく説明」していた。園児の性に関する気になる行動は、225人(70%)が経験し、気になる行動の内容は「性器さわり」「キス」が多く、そのような行動に対し「戸惑い」を感じ、「気をそらせる」対応をしていた。幼児期の性教育が必要と考える者は88人で、「男女の体」「妊娠出産」を考える者が多かった。性教育で困っている者は83人で、困っている内容は「具体的に方法を知らない」が多かった。

幼児期の性教育の必要性が確認され、幼児期の性教育の課題として、教育内容の明確化、幼稚園教諭への学習機会の提供、幼稚園と保護者の連携という3点が明らかになった。

キーワード: 性教育, 幼児, 幼稚園教諭